

## INTERVIEW

盆地で育ち、音楽を学んだ若者たちが、盆地にフレッシュな音楽をお届け。みんなで応援しよう！



児玉茉由さん  
(フルート)  
宮崎県立高等学校卒業  
島崎楽器フルート講師

松元京子さん  
(ヴァイオリン)  
都城西高等学校卒業  
大分県立芸術文化短期大学  
音楽科 在学中

山崎由夏さん  
(ソプラノ)  
都城ヶ丘高等学校卒業  
大分県立芸術文化短期大学  
音楽科 在学中

4回目を迎える今回は、単に演奏するだけでなく、“音楽の魅力を発信するため、自分でステージを創り上げること”を出演者への課題としました。限られた時間の中で音楽の素晴らしさを伝え、自分をアピールするにはどうしたらよいか、3名それぞれが創意工夫し、一人20分間の舞台をコーディネイトします。これまでのコンサートとは一味違う、演者の想いがひしひしと伝わる新しいコンサート。

出演する3人に、お話を伺いました♪

\* \* \* \* \*

## Q. 音楽に興味を持ったきっかけは？

児玉さん 小さい頃、幼稚園で普段から鍵盤ハーモニカを吹く機会が多くその時間が楽しくて、ある日グランドピアノを見てピアノを弾きたい！と思ったことです。

松元さん 母がピアノの先生だったので、物心付いた時には音楽と自然に触れ合っていました。

山崎さん 幼稚園児の頃母の勧めでピアノを習い始めたことが大きなきっかけですね。なので物心ついた時には毎日音楽があり、親しみ、共に成長しました。音大を志すきっかけとなつたのは小学生の合唱部に入部したことや、のだめカンタービレ(漫画・ドラマ)と出会ったことです。

Q. 松元さんと山崎さんは今、大学生でいらっしゃいますが、どんなことを学んでいますか？

松元さん オーケストラや室内楽など今まであまり経験する機会がなかった幅広い音楽を学ぶことが出来ています。

山崎さん 主科である声楽のレッスンでは、歌手はサービス業であり、音楽の魅力を自分で取って食ってはならない、あくまで提供する側であり、聴いて下さる方が楽しむものだと。自分が歌うことで何か届けることができたなら幸いであると。技術だけではなく、歌い手としての姿勢等も常常教わっています。

\* \* \* \* \*

## Q. 児玉さんは社会人ですが、どのような活動を？

児玉さん 現在は演奏活動と他にフルート講師をしています。生徒さんと楽しくレッスンをしていて、勉強になることもありますし、なによりも生徒さんの成長がみえたとき、とても嬉しいです！

## Q. 公演に向けての意気込みをお聞かせ下さい。

児玉さん フルートを通して音楽の楽しみ、楽器の魅力を精一杯皆さんにお伝えできたらと思っていますので、ぜひ一緒にその時間を味わいましょう！

松元さん 大学で成長した姿を皆さんに披露できたらいいと思います。

山崎さん 今回の公演は、地元から離れた土地で頑張っている姿を、普段中々演奏会等見に来ることができない家族や友人、お世話になった先生方にみてもらえるよい機会であり、自己の貴重な経験となるはずです。聴いて下さる方々の心に響く歌声を届けられるよう、精いっぱい歌わせていただきます。

## 【過去公演の来場者アンケートより】

- 自分とあまりかわらない年齢の方たちのステキな演奏にとても感動しました。また、自分も頑張らなければ自分への励みになりました。
- 地元でこのような素晴らしい人材が育っていることを誇らしく嬉しく思います。
- 若いアーティスト達を見て、都城も文化度の高い市になっていると確信しました。今からも応援したいと思います。

\* \* \* \* \*

## 盆地のフレッシュコンサート

## ～都城から羽ばたく若い音楽家たち～

2016年3月26日（土）開演19:00（開場18:30）  
都城市総合文化ホール 中ホール 全席自由500円

## &lt;出演&gt;

児玉茉由 松元京子 山崎由夏

## &lt;アドバイザー（講評）&gt;

桐原直子先生  
公益財団法人宮崎県立芸術劇場音楽事業アドバイザー

## &lt;ゲスト&gt;

高場涼子（ピアノ）  
公益財団法人宮崎県立芸術劇場音楽アートリーチ事業  
第3期登録アーティスト



【プロフィール】  
たかばりょうこ。日向市出身。  
桐朋学園大学音楽学部卒業。現在、後進の指導や演奏活動を行っている。ピアノを葛西寛、斎藤未奈、大橋京子の各氏に師事。  
公益財団法人宮崎県立芸術劇場音楽アートリーチ事業第1・2期登録伴奏者、第3期登録アーティスト。

\* \* \* \* \*

## REPORT

去る1月11日、アートのちからでみんなの夢を分かち合うM J流新年イベント「初春☆夢を描こう、踊ろう。」を開催しました。絵描きや書の体験など様々な企画がある中でトリを務めたダンス「WAになって踊ろう」に、準備から本番まで約2ヶ月にわたって参加された徳永紫保さんにお話を伺いました。

一昨夏の伊藤キムさんのダンスワークショップに参加したメンバーのうち6人で振付や構成を行いましたね。

メンバーだけで何かを創り出すことは初めてのことでしたので、各々が持つイメージや役割を探しながらという感覚がありました。自分の感じていることを伝える、相手のそれを引き出すことの難しさがあったと思います。まさに手探り状態、でも、それが良かったです。ひとりでは出てこない動きや想像があふれて、どんどん厚みを増してきました。新しい発見もありましたし、作業過程が素直に面白かったです。なにより、メンバー自身が楽しんでできたと思います。

また、ホールの担当の方が上手にまとめて下さり、客観的なご意見を聞かせていただけたので、暴走!?せずに済んだ部分もありがたかったです。ホールとメンバーと一緒に創り上げていく感覚がとても新鮮でした。

一当日は大人も一緒に踊って下さり大変盛り上がりました。

ロビーという、観客とパフォーマンス側との境がはつきりない空間でしたので、観ている方も作品の一部になるように意識はしていました。これは、夏の伊藤キムさんの作品で観客とダンサーが同じ舞台上にいて、とても近い距離でパフォーマンスをした経験が活かされていたと思います。そして、音楽の力！これは大変大きかったです。生演奏の迫力と優しさが会場を上手く包み込んで、まとめ上げてくれました。

一本番までの2ヶ月の間には、新たな経験もあったかと思いますが、アートが持つ可能性やホールの役割について、いま想うことありますか？

ホールとは、舞台や特別なチケットを持って出かける非日常と、練習室やロビーなど気軽に使える日常が共存している場所

だと思います。アートも同じく、日常に描く文字や絵が形を変えていくことで、非日常になり作品となります。ダンスも歩くことが音楽や仲間と共鳴してステップになります。

日常の中にこっそり潜んでいる非日常を引き出すこと、それに気づいて心を躍らせること。これが、アートの可能性であり、そのきっかけを創れる場所がホールの役割だと感じました。そして、今回のように人と人が WA になって、つながりをつくれることが積極的にできれば、都城の元気の素のひとつになるのではないかと思います。

ふと見上げた空に虹を見つけると、なんだかワクワクします。MJホールには日常と非日常を、アートと人、人と街をつなげる都城の虹の橋になっていただきたいと思います。

☆フォトライブラー☆ 撮影: Ayano.Sō (一部のみの紹介)



書をライブで披露した野海靖治さんの作品「飛ぶ」は MJ に展示中

夢を描くワークショップを進行した松下太紀さん（右）



松下太紀さんの作品「見るぜ！」言わず!! 聞くぜ!!」は MJ ロビーに常設



都城東ヶ丘高校ユースコ部の皆さんがボランティアとして活躍

ダンスの直前練習には大勢の子ども達が参加

本番は三猿を囲んで、大人も子どももダンス！ダンス！ダンス！



平成27年度創造事業 スマイルみやこんじょ第7回公演『妖怪ガ格、街に現る～みやこんじょ家族のオムニバス悲喜劇～』1/16(土)・17(日)開催  
脚本から出演まで市民で作る演劇。第7回公演は都城に伝わる妖怪「ガ格(河童)」が現れた4組の家族のストーリーを上演しました。

都城市総合文化ホール MJ  
<http://mj-hall.jp>

都城にイロドリを。  
MJdays  
都城市総合文化ホール広報誌 2016年 春号  
3月~5月

発行・編集／都城市文化振興財団・MAST共同事業体 (都城市総合文化ホール指定管理者)

